

## 自己評価報告書(最終報告)

報告者

生活・健康系コース  
(保健体育) / 吉本 佐雅子

### ■平成24年度の目標に対する自己点検・評価

#### I. 学長の定める重点目標

##### I-1. 科研費申請に向けた計画等

国立大学法人運営費交付金は年々削減され、教員の研究費配分も厳しくなっており、教員各自が研究のための外部資金を獲得しなければならない状況である。そこで、科研費申請に向けて、あなたが考えているテーマと計画等について示してほしい。

#### 1. 目標・計画

現在、基盤研究(B) (2010~2013年)「高校生の薬物乱用と背景要因についての定点追跡調査研究」が採択され、研究を進めている。  
本研究と並行して、2012年度には、基盤研究Bと重複申請可能な分野の科研補助金に以下のテーマで申請する。薬物乱用を含む青少年の危険行動についてのこれまでの調査研究を網羅し、Evidence(確証)based health education ための知見を収集し、効果的なプログラムを作成する。

#### 2. 点検・評価

基盤研究(B) (2010~2013年)「高校生の薬物乱用と背景要因についての定点追跡調査研究」について、2012年度の実施計画通り完了した。また、この科研の課題を継承するものとして「高校生の医薬品の使用について」が考えられ、次回(2014年度)の科研申請に申請する計画の準備ができた。

##### I-2. 大学院学生定員の充足に向けた取り組み

専攻・コースのこれまでの大学院学生定員の充足状況を踏まえた上で、あなたは定員充足のためにどのような取り組みを行うか、具体的に示してほしい。

#### 1. 目標・計画

○保健体育コースでは、近年、定員数を超える学生が来ている。コースとしては十分であるが、これからは現職教員の割合を増やしたい。  
○研究を通じて、高校生の薬物乱用の調査は全国規模で行っており、各都道府県の教育委員会の協力を得ている。これによって、現職教員の派遣に際して、本テーマを行っている本学が派遣大学の選択肢となる得る可能性がある。  
○日本学校保健学会において、発表者のうち、養護教諭をはじめとする現職教員にコンタクトをとり、勧誘する。  
○従来どおり、教育委員会等の主催研修会、講演会にて、本学の修士課程を宣伝する。

#### 2. 点検・評価

「高校生の薬物乱用の調査」を全国規模で行っており、各都道府県の教育委員会の協力を得ている。これによって、現職教員の派遣に際して、本テーマを行っている本学が派遣大学の選択肢となっていると考えている。また、共同研究、会議などの機会に養護教諭をはじめとする現職教員にコンタクトをとり、勧誘した。

## II. 分野別

### II-1. 教育・学生生活支援

#### 1. 目標・計画

- 指導学生(大学院長期履修生)に対して教員採用試験の準備を指導する。
- 健康に関する複数の授業を担当しているが、受講者の学年、選択必須にばらつきがある。これら授業に一貫性を持たせるよう、授業内容を工夫する。
- 学生が気軽に進路、悩みなどの相談に来られるよう、また、学生の様子を把握できるよう、日常的に学生とのコミュニケーションを図る。
- 博士課程学生の学位論文作成の指導を行う。

#### 2. 点検・評価

- 指導学生(大学院長期履修生L2)に対して教員採用試験の準備を行わせた。
- 健康に関する複数の授業を担当しているが、受講者の学年、選択必須にばらつきがある。これら授業に一貫性を持たせるよう、授業内容を工夫した。
- 学生が気軽に進路、悩みなどの相談に来られるよう、また、学生の様子を把握できるよう、日常的に学生とのコミュニケーションを図った。
- 博士課程学生の学位論文作成の指導を行った。

### II-2. 研究

#### 1. 目標・計画

- これまでに4回行った全国規模の喫煙・飲酒・薬物乱用に関する高校生調査について分析し、その成果を論文として投稿する。
- 科研(B)の高校生における喫煙・飲酒・薬物乱用に関する定点的調査を進める。

#### 2. 点検・評価

- 日本学校保健学会(11月神戸)にて、これまでに4回行った全国規模の喫煙・飲酒・薬物乱用に関する高校生調査について分析し、その成果を発表した。
- 科研(B)の「高校生における喫煙・飲酒・薬物乱用に関する定点的追跡調査」の2012年度の計画(結果報告、成果発表、次年度調査準備など)通り完了した。

## Ⅱ-3. 大学運営

### 1. 目標・計画

- 地域連携センター所長を併任
- 衛生委員会, 学生相談室委員会の委員として業務を遂行する。
- 大学機関別認証評価作業部会の委員として大学運営にかかわる業務を行う。
- 大学院生確保のための広報活動を行う。

### 2. 点検・評価

- 地域連携委員会委員長, 衛生委員会, 環境巡視, 学生相談室委員会の委員として業務を遂行した。
- 地域連携センター所長を併任した。予防教育センター教員を兼任した。
- 6件の教員選考委員会の委員を務めた。
- 徳島県教育委員会主催の性に関する指導についての委員会の委員を担当した。
- 日本教育実践学会の常任編集委員会の委員を担当した。
- 大学院生確保のため, 学会, 会議等での広報活動を行っている。

## Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

### 1. 目標・計画

- 附属学校との懇談会, 研究会, 実地教育指導に積極的に参加し, 附属・大学の連携体制が必要な課題を見つける。
- 性教育, 薬物乱用防止教育, 生活習慣病などに関する地域の研修会, 会議に積極的に参加する。

### 2. 点検・評価

- 附属小学校, 中学校での授業研究会, 実地教育指導に出席した。
- 附属中学校第56回中学校教育発表会研究紀要に寄稿した。

## Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

「高校生の薬物乱用の調査」は全国規模で行っており, 各都道府県の教育委員会に本調査の周知をおこなった。これによって, 現職教員の派遣に際して, 本テーマを行っている本学が派遣大学の選択肢となっていると考えている。